

スペイン・イビサ島旅行記

2012年10月1日から19日までスペインのイビサ島へ行って来ました。これはその旅行記です。

ご支援も含めて、この旅行でお世話になったすべての皆様に改めて御礼申し上げます。



10月1日(月) イビサ島へ

台風17号が過ぎ去って、穏やかな朝を成田空港へ向かった。

前日、成田東横インに泊まっていたTご夫妻とブリティッシュエアウェイのチェックインカウンターで合流。いざ出発となった。

スペインへ行くにはまずイベリア航空を考えるのが普通だが、成田からイベリア航空のスペイン直行便は飛んでいない。スペインと日本とは政治的にも経済的にもそれだけ遠い国だということだ。

仕方なく他の航空会社から選ぶしかない。安いチケットという選択肢ではエアフロートだが、モスクア経由ということにどうも二の足を踏んでしまった。結局、過去の実績でブリティッシュエアウェイに決まった。

ところが、最終目的地のイビサ島へ行くのに、ロンドンでヒースロー空港からガトウィック空港に移動して、そこから直接イビサ島へ入ることになる。マドリードへもバルセロナへも寄らないのだ。スペインの首都に挨拶をせずに、いきなり地方の島に行ってしまうわけだが、今はそれほど飛行機のローカル便が発達しているということだろう。

さて、ヒースロー空港からガトウィック空港へ移動すると言っても一筋縄ではいかない。それほどややこしいということなので、下調べを怠らなかった。

ブリティッシュエアウェイの機内の座席に付いているディスプレイでヒースロー空港到着後の紹介が出ていた。まず、私たちが到着するターミナルは第5ターミナル。そこから第1、或いは、第3ターミナルにバスで移動して、そこにあるバスセンターからガトウィック空港行きのバスに乗る。

それだけのことなのだと、頭では理解出来た。

そして、いざヒースロー空港の第5ターミナルを出てみると、各ターミナルを循環しているはずのバス乗り場がない。バスの発着場の端から端まで探したけれど…。

そこで係員に聞くと、「地下鉄で行け」という。結局、現在は各ターミナルを循環しているバスは出ていないらしい。すでに、ブリティッシュエアウェイの機内情報は古くて間違っていたのだ。

地下鉄乗り場へ急いで行った。市内へ入るには、もちろん、チケットを購入しなければならないのだが、第1と第3ターミナル行きはどうやらフリーらしい。急いでいたので、はっきりとはわからなかったが、有料と無料でプラットフォームの乗り場所が違うのではないかと思う。ま、それでも地下鉄に乗って、第1、第3ターミナル駅にまでは着いた。

さて、そこからガトウィック空港行きのバスが出ているバスセンターまで行くのだが、これが遠い。地下道を歩きに歩いた。そして、バスセンターにとうとう到着。

そこでバスの発着を示すディスプレイを見た。はっきり言って、分かりにくい。発着時刻と目的地が書いているのはわかる。しかし、出発するバス乗り場の番号までは書いてない。どこから乗ればいいのか？

そして、いつもの通り、係員に聞くと、「次は747番と表示のあるバスに乗ればいいのよ。わかる？OK？」と子供を諭すような口調で言う。

はいはい、747 番のバスに乗ればいいんだね。

私としては、どうも胡散臭くて信用出来ないのですが、バス発着のディスプレイを見に行くと、747 番のバスはブリトン行きになっている。「違うじゃん」とは思ったものの、良く見ると、ガトウィック空港経由ブリトン行きだった。

このバスに乗ると、心配していたラッシュ時の渋滞もなく、無事にガトウィック空港に着いた。めでたし、めでたし。

ガトウィック空港の手荷物検査は、ヒースロー空港以上に厳しい。体中を触りまわられて、検査された。確かにテロリストにとっては、ローカル空港の方が狙いやすいということだろう。

そして、とうとうスペインのイビサ島に到着。時刻は深夜の 12 時を回っている。ここにホテル行きの車が待っているということだが…。

閑散とはしているけれど、エージェントはいた。さすがにイビサ島は若者が酔いしれる島であり、不夜城である。そして、予定通りにバンに乗って、今晚泊まるホテルの前に着いた。

その路地裏は若者がたむろしているバーがあり、ロックミュージックがガンガンにかかっている。ホテルの入り口へ行くにはそのたむろしている若者の中を歩いていかねばならない。場違いの感じは否めない。その若者の中を分けいって、ホテルのドアを開けて中に入ると、ふーっと一息ついた。

「何時ぐらいまで、この音楽は鳴り響いているのですか」とホテルのフロントで聞くと、「午前2時には終わるよ」とのこと。疲れているけど、眠れるのであろうか。



Eivissa で宿泊したホステル La Marina



港の散歩



港にある石像の前で

10月2日(火) Cala Vadella

朝は7時を過ぎてから、明るくなった。外に出て見ると、目の前はヨットハーバーだ。昨日は、海に面したこじんまりとしたホテルに泊まっていたことになる。深夜の喧騒は嘘のように、今は静かだ。路地に設置されていたバーはきれいに片付けられ、水が撒かれていた。アルコール臭さなどはなく、静かな港町の風景がそこにあった。

カフェレストランの外のテーブルで朝食を取った。

ホテルをチェックアウトして、一旦、空港に戻りレンタカーを借りた。地元のレンタカー会社を使ったので、料金は安い。カーナビも付いている。しかし、設定の仕方がわからない。というよりも機能が限られていて、細かい目的地の設定は出来ないようだ。

カーナビに頼るのは諦め、地図とコンパスを使って人間ナビを行った。ロータリーには戸惑ったが、道幅も広く、案外と島は小さいので、ナビ自体は難しくはない。無事に Cala Vadella のアパートメントに着いた。

まだ、昼過ぎなので、早速 Buda の岩場に行って見ることにした。岬の先にある島 Es Vedra は荒々しくて美しい。オデッセイの旅する怪物の島のひとつかと間違ってしまう。そして、この辺りの松の葉は若緑で真っ青な空によく映えた。

さて、岩場へ行こうと道を右に曲がったのだが、岬の先端に続く稜線に出てしまった。眺望は素晴らしいが、岩

場は足の下にあるのだ。本日は大汗をかいただけで、岩場の取り付き点に着かずに終了。こういう日もあるさ。宿に帰ってビールを飲もう。



イビサ島の西にある Cala Vadella の
日の出



オデッセイの話に出て来そうな Es
Vedra



ヒッピーが作ったケルン・・・若者たちは Atlantis を求めてこのパワースポットを通る

10月3日(水) Rampante de Buda

今朝は以外と冷えた。毛布1枚追加しても良いくらいだ。

さて、今日から本格的にクライミングである。Buda の岩場の駐車場から、間違えないようにビーチの方に降りて、右に曲がった。右側は延々と続く大きな岩壁だ。Rampante, Colorado, Cuevas とエリアのルートを見ると石灰岩のフェースである。

6a といっても、ツルツルでとても登ろうという意欲がわかなかった。まして、南向きなので、まともに陽が当たって岩は熱くなっている。去年の Finare Ligre のように、登る前に敗退ということが脳裏を過った。

しかし、気を取り直して、もっともやさしいエリアの Rampante からスタートすることにした。

EGB 4+, Si no lo ves, no te lo des 6a, Uno + uno 4+

ルートに取りつくと、横から風が吹いて、さわやかだ。真っ青な空、紺碧の海、白い壁。透き通った空気の中の景色は抜群のコントラストである。日本にはない風景だ。これを味わえただけでも成果ありである。

夕方、サンセットを見るために入り江に歩いていった。午後7時半過ぎに大きな真ん丸な太陽が水平線に綺麗に落ちていった。イビサ島のサンセットは有名だが、その意味が私にも初めてわかった。これは見た人でなければわからない。この美しさの表現方法がわからないのだ。先端の岬にいるのはカップルばかりだった。



Uno + uno 4+



Uno + uno 4+



Cala Vadella のサンセット

10月4日(木) Es Vedra de Buda

Buda のメインのエリアは南西を向いていて、ほぼ1日太陽が照り付ける。木陰になるところがあれば、ビレイヤーは助かるが、日差しに晒されている場合は、それだけで疲れてしまう。

そこで、メインのエリアの反対側の北東面にもエリアがあることに気付いた。Es Vedra という小さなエリアであるが、そこに行ってみることにした。

いつもの駐車場から岬の尾根を登らずに、その尾根を左手にみながら、車道のような広い道を進んで行くと Es Vedra という島が見えるビューポイントに出る。この景色は圧巻だ。観光客もここまでは大勢やってくる。この

ビューポイントのすぐ下は海岸まで切れ落ちているが、そのひとつの横穴にヒッピーが住み着いている。イビサ島はヒッピー発祥の地らしいので、ここでは違和感を感じることはない。

そうそう、この島には蚊がほとんどいない。私の経験では世界中何処に行っても蚊がいるので、私は蚊対策にはいつも万全を期している。しかし、今回ばかりは無用の対策だったようだ。

話を戻して、横穴生活をしていても蚊のような虫対策をしなくていいというのは大きなメリットだ。このイビサ島がヒッピーにとって住みやすいというのも、そういう小さなことが理由のひとつかもしれない。

さて、クライミングエリアに着いてみると、良いですね。予想した通りのシェード。暑くなくて、さわやかだ。早速、**Flower Power 5+ 30m**に取り付いた。右手に見える**Es Vedra**の島を見ながらのクライミングは最高である。そして、**New Age 6b+**と**Hunabku 7a+**を登って本日は終了。楽しいクライミングを満喫出来た。



Es Vedra の View Point にて



Flower Power 5+



New Age 6b+

10月5日(金) Pueblos Oprimidas と Restaurante Maria Luisa

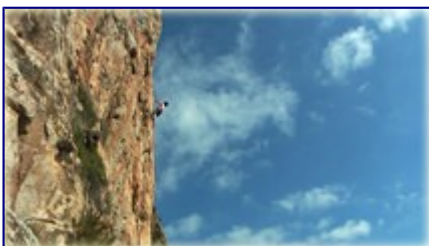
朝方、多少曇り空であることを見て、**Pueblos Oprimidas** エリアへ行った。ここはうすかぶりの壁。ホールドは大きそうに見え、ツルツルのフェースでないところに興味を覚えた。

Palestina 6aに取り付いてみると、見た目以上にかぶっている。そして、ホールドはサイドプルあり、アンダーありと多彩である。日本なら**6b+**と設定してもおかしくない。やはり、このエリアのグレード設定は厳しいと思う。その隣の**Kurdistan 6a+**は甘いサイドプルに、体の振りを要求されるので、一層厳しい。このエリア全体に慣れるために、やさしいルートをたくさん登った方が良さそうだ。

ここで、空から雲がなくなり、太陽からの日差しが直接岩壁に当たった。暑すぎるということで、一時木陰に避難。その内、気力も萎えて来たので、宿に戻ることにした。

帰り際、ヒッピーの一人と目が合った。彼は仏教式に手を合わせて、私に挨拶をした。私も同様に手を合わせて彼に挨拶をした。彼の笑顔はとても人懐っこいものだった。ひょっとしたら私にもヒッピーに近い要素があるのかもしれない。

さて、今日は地元のレストランに行ってみることにした。**Restaurant Maria Luisa**。スペインと言えば、パエリアでしょう。豪華にシーフードパエリアをお腹一杯に食べた。明日はクライミング出来そうにない。ご馳走様。



Palestina 6a



パエリア



パエリアを盛り付けるウェイトー

10月6日(土) ヒッピーマーケット Las Dalias

本日はレスト日。イビサ島の東にある Sant Carles de Peralta で、毎週土曜日にヒッピーマーケットが開かれているというので行ってみることにした。このヒッピーマーケットの名前は Las Dalias。

午前11時頃に、この駐車場に着いたが、すでに相当数の車が停まっている。係員に駐車場代の3ユーロを払って、マーケットの中に入った。

正直言って、その質の高さに驚いた。これまで屋台の出る蚤の市と言え、何処かで作らせたものを卸して来て、安く売るといのが相場だ。よって、それぞれの屋台に出る商品も似たようなものが多く、少し見ると飽きてしまう。

ところが、この Las Dalias に屋台を出している人達は本物のヒッピーなんだろう。自分で作ったものを出している。他の屋台と似たようなものがあつたとしても、それは決して同じものではなく、何かしらの工夫が凝らされている。だから、屋台の前に立っている人達はその店の売り子というよりは、それぞれがアーティストであると言った方が近いような気がする。

スペインはガウディやピカソを生んだ国だ。その卵達がこのマーケットで新しいものを作り出しているのだろう。ここに来るイギリスやドイツからの観光客はここでお金を落として、たくさんのお土産を買っていた。ここは確実にイビサ島の観光スポットである。



Las Dalias



イビサ島にいるほとんどの観光客が訪れているのではないかな？



見飽きることはない Ta さん

10月7日(日) Es Vedra de Buda

明日移動するので、Buda のエリアでは、最後のクライミングとなる。直射日光が当たるメインエリアは避けて、Es Verda へ行き、まだ登っていない右側の3本のルートに登って、おしまい。

結論から言うと、イビサ島を代表する Buda のメインエリアはもっと涼しい時期にトライした方がよい。

今日は霞みが出て、日本の春のような天気だった。しかし、私達がイビサ島に入ってから、未だに雨は降っていない。

10月8日(月) Port de Sant Miguel

さて、今日は Cala Vadella から Port de Sant Miguel に移動する。言うなれば、Ibiza 島の西海岸から北海岸に移動するわけだ。

車のナビの使い方も段々とわかって来た。アドレスから入力すると、決められた限りのある地域しか出て来ないので、ちんぷんかんぷんなのだ。しかし、マップをみて、行きたいところをタッチパネルで直接指定すれば OK。

また、Ibiza 島の道幅は広いので、運転しやすい。イタリアのシチリア島やフィナーレ・リグレとは大きな違いだ。

そうして、ほぼ迷うことなく、Port de Sant Miguel に到着。驚いたことに、ここはビーチに面した全くのリゾート地である。イギリス、ドイツから、老夫婦であったり、家族連れであったり、たくさんの観光客が押し寄せている。

このような規模の大きいところのレストランはあまり期待出来ないので、スーパーマーケットに買い出しに出かけた。ガソリンスタンドのおじさんに聞くと、「大きなスーパーマーケットは 19km 先の Eivissa にある」という。つまり、大きなスーパーマーケットは大きな町である Eivissa と Sant Antoni の近郊にしかないということだ。

それでも小さな島なので、30 分もかからずに着いてしまう。なぜ、大きなスーパーマーケットにこだわるのかと言うと、食材が圧倒的に安くて、圧倒的に美味しいからだ。ムール貝は 1kg で 1.7 ユーロ。別段に味付けをしなくても、揚げたり、炒めたりするだけで、素材がいいので十分に美味しい。

その調理をするにも現地ではなかなか手に入らないものがある。去年の経験から、今年は固めるテンプルと片栗粉を持って来た。これで心置きなく揚げ物ができる。本日の夕食は新鮮なエビといかの揚げ物。原産地指定の白ワインで大いにスペインを味わっているのだ。

10月9日(火) Sol y Sombra, Santa Agnes

ドイツやイギリスから来た観光客がはめをはずすのだろう。今朝3時頃までうるさくて、眠れなかったので、部屋を替えてもらうことにした。新しい部屋への移動で手間取り、出発時刻は多少遅れた。

まずは近くの Sol y Sombra に行ってみることにした。13km の標識から右に入り、狭い道を上っていく。分岐は分かりにくく、舗装している道を選んでいくと、14km の標識のところへ出てしまった。Port de Sant Miguel の方へ 1km 戻ってしまったのだ。

再トライ。再び、13km の標識から右に入る。ほぼ上りきったところから左のダート道に入る。地図に書いてある Can Joan de Sa Torre まではわかったが、それ以降の地図に書いてある対象物がわからない。そのうち、ダート道は荒れて普通自動車を通るには難しくなった。Sol y Sombra のクライミングエリアを見つけ出すことは出来なかった。ギブアップである。

気持ちを入れ替えて、Santa Agnes のエリアへ行ってみることにした。

Sant Mauteu から右に入り、車一台が通れるほどの農道を西にひたすら走る。石に Can Puyolet とペンキで書かれたところを右に曲がる。悪いダート道を北へ進んで行き、Can Puyolet を越えて、さらに進むと広いスペースに出た。多分、地図に書かれている3つのパーキングのひとつなのであろうが、はっきりとわからない。チェーンソーの音が聞こえるので、その家へ行き、お兄さんに地図を見せて岩場への道を尋ねた。そうすると、英語で答えて来た。

「クライマーがよく道を尋ねに来るんだよ。この地図じゃあ、わからないね。私はクライマーじゃないので、エリアの名前はわからないが、多くのクライマーが行く2つのエリアがあるよ。

ひとつは来た道を 100m 戻って、そこから右に入る。分岐を左、そしてまた、左に曲がれば広いスペースに出る。そこから、見下ろすと海岸の崖っぷちが見えるはずだ。細い道を降りて行くと、そこが岩場だ。

そして、もうひとつのエリアは先ほど見た Can Puyolet の前にある道を入れて行くんだ。ペンと紙を持っていたら書いてあげるけど…。わからなきゃ、また聞きに来るといいよ。」

気さくなお兄さんだったが、私にはなんだかアーティストの匂いがした。ヒッピーというのではないが…。

さて、お兄さんの言う通りにひとつ目のエリアに行ってみると、ありました、ありました。ここが Santa Agnes でした。素晴らしい眺望だ。



リゾートアパートの部屋からの眺め



Santa Agnes ののどかな風景



Santa Agnes の岩場の上から

10月10日(水) Es Canar

今日は水曜日。もうひとつのヒッピーマーケットである **Es Canar** が開催される。Ta さんにとっては、クライミングよりもはるかに重要なわけで、このヒッピーマーケットに行かずにパスする事なんて考えられない。

Es Canar はイビサ島の東にある港の近くで開催される。観光客の多い港町の通りをそのまますり抜けて行くと、そこに **Es Canar** の駐車場がある。係員がいて、駐車場代の 3.5 ユーロを払った。

さて、マーケットの入り口に来ると、すごい人だかりだ。イビサ島に来ている観光客のほとんどがここに集まっているのだろう。屋台を覗くと、**Las Darias** でも出店していた人にもあった。重複して出店している人も当然ながらいるわけだ。

だからといって、**Es Canar** が、**Las Darias** とまったく同じというわけでもない。女性が喜ぶアクセサリーやドレスが一杯ある中で、それらにまったく興味のない私はミュージシャンの演奏やスプレーを使って即興的に描く画家の絵に興味をもった。

今回もまた、たくさんのお土産を買った私たちはこのイビサ島の経済に大きく貢献していると自負しながら帰ろうとすると、マーケットの出口がわからなくなってしまった。それほど、**Es Canar** は広いということである。

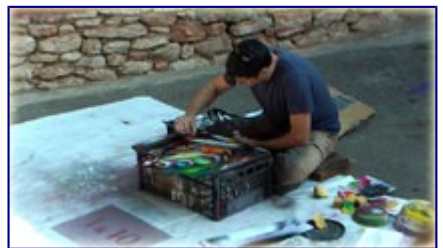
宿に戻って来ると、早速買って来た敷物をテーブルクロスに代用。本日も Ta さんの白身魚のソテーとサラダ、そして、ロゼのスパークリングワインで舌鼓を打ち、一日を終えた。



Es Canar の入り口



買い出したら切りが無い



スプレーだけを使って描く画家

10月11日(木) レンタカー延長と Santa Agnes

朝、To さんから「ちょっと問題が発生した。レンタカーの利用を延長するため、**Santa Eularia** のレンタカー事務所に行かなければならなかった。」

日本のカーナビならば、レンタカーの事務所のアドレスを打ち込めば、そこに達することが出来る。しかし、現在使用しているレンタカーのカーナビはアドレスを入れるところの機能が十分でない。簡単に言えば、当てにならないのだ。その中で、大きな町である **Santa Eularia** のレンタカー事務所を探し出すことが出来るだろうか。

とは言っても、行ってみるしかない。**Santa Eularia** の町に近づくと、現在借りているレンタカーの事務所のひとつを発見した。この事務所でも延長手続きが出来るのではないかと思い、入ってみた。

おじさんに話をすると、「この事務所での延長は出来ないよ。町の中の事務所に行かなければいけないけど、

そこを見つけたすのは簡単だよ。」

ということで、いい加減に道順を聞いて町に入ったけれど、さっぱりわからない。1時間ほどウロウロして、もう一度先程行った事務所に帰り、道順を紙に書いてもらった。

その内容は、石造りの橋を越えて5番目の通りを右に回る。その角にはホテルがあるはずだ。そして、その道をゆっくりと道なりに下り、右に曲がったところのすぐ右に事務所がある。

確かに、紙に書いてあった通りに行けば事務所は見つかったけど、これが簡単なのだろうか。それとも、スペイン人の方向感覚が優れているということか。

10月12日(金) Santa Agnes

昨日は曇り空で風が強かったが、今日は穏やかに晴れ渡った。

Santa Agnes のエリアへ行き、まずはアップで、Carola caracola 5 を登った。終了点に着くところが少しランナウトするので緊張した。次に American people 6a をトライ。出だしのハングを越えたところが細かい。La abubilla 6a+ はハングを越えてレイバックが続く面白いルート。

最後に、そのアレートの左にあるルートに取り付いたが、出だしが悪く離陸出来ず。最初のピンを A1 で越えて登った。最初さえクリア出来れば、かぶり気味のガバガバの快適ルート。本日はこれでおしまい。

その後、スーパーマーケットに買い出しに出かけたが閉まっていた。どうやら金曜日は休みらしい。あーあ。



American people 6a



American people 6a



毎日の食卓の一例

10月13日(土) Sol y Sombra 探索

未明に雷を伴って、どしゃ降りの雨が降った。イビサ島に来て、初めてのまとまった雨である。これだけ降れば、岩も濡れているだろうということで、本日のクライミングは中止。

しかし、3度トライして、まだ見つけていない Sol y Sombra の探索を行うことにした。なぜ、そんなにこだわるかというと、「Nobody can deny the beauty of the place.」とガイドブックに書かれているわけで、どうしてもそこに到達しないわけにはいかない。

前回引き返した分岐のところのスペースに車をおき、そこから歩いて西に向かった。道なりに進んで行くと分岐があり、そこを北に進んだ(左の道に入った)。すると右手に崖が出て来て、その下が Sector Sol だった。道を真っ直ぐに進むと見晴らしの良い大きな広場に出る。ここは View point でこの辺りの海岸が一望出来る。

そこから岩のテラスを左手に下り、テラスが無くなる場所で右手をよく見ると小さなケルンがある。ケルンに導かれて行くと、ロープが垂れており、ここを下に降りれば Sector Sombra だ。とうとう目的の岩場を見つけ出した。

引き返そうとすると、6人ほどのドイツ人クライマーがやって来た。「ここはいろんな岩場を楽しめるんだ。」と教えてくれた。彼らは何度も通っているようだ。

私たちは元来た道に戻り、駐車している車のところに着いた。しかし、ドイツ人達の車は見つからない。彼らは

どうやって来たのだろうか。

10月14日(日) Sector Sombra

昨日見つけた Sector Sombra へ行ってみた。「Nobody can deny the beauty of the place.」という期待は少々外れた。でも、日陰でやさしいルートがたくさんある初心者向けのエリアだ。イビサ島に来たら、体ならしのために、このエリアからスタートしたら良いかもしれない。

トポに書いてあるグレードと実際にルートの取り付きのところに書いてあるグレードは合っていない。多分、後者の方が適切だろう。4本ぐらいを登って終了。帰りに残置ロープを使って、上までゴボー登りをしなければならぬのだが、これが一番疲れるかもしれない。



Sombra エリアへ行くにはまず懸垂
下降から



5c



4a

10月15日(月) Santa Agnes

昨夜も雨が降り、強い北風が吹いている。気温がぐっと下がった。

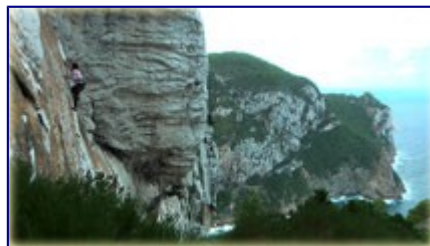
今日はクライミング最後の日。もっとも美しいエリアである Santa Agnes に行くことにした。岩場へ着くと、海の白波が立っているのが見えるが、岩場自体は思ったよりも風が吹いていない。岩も乾いている。

終了点出口に大きなハングのある Tonito Bravo 6c にトライ。フェースもしっかりとホールドがあり、ハングもガバツとしたホールドがある。つまり、快適にオンサイト。オンサイトはいつも気分の良いものである。

次に Mazinger Z 6b にトライ。こちらは見た目以上にアンダーホールドが多く、トリッキーだ。鳥の巣などにも気を付けて登った。イビサ島最後のクライミングは快適に終わった。



Carola caracola 5



Tonito Bravo 6c



Tonito Bravo 6c

10月16日(火) Aquarium

長かった Sant Miguel の滞在も本日でおしまい。お昼少し前にチェックアウトした。

深夜に出発するフライトまで十分に時間があるので、東海岸にある Sant Vicenc のビューポイントまでドライブした。山の中を通る時、一体の松林は山火事で枯れていた。ここら辺りは民家も疎らで寂しいところだ。

次に、一転して、西海岸の Sant Antoni にある Aquarium までドライブ。この Aquarium は海岸に出来た自然の洞窟を利用して、作っている。日本の規模の大きい水族館を予想して行くと当てが外れる。しかし、こじんま

りとしたこの Aquarium も悪くはない。

一服しようと近くの Cafe Restaurante に入り、ピザを食べた後、フライト便の時刻を確認しようと旅行計画書を見たら…………。

確かに、フライト便の出発時刻は 0 時 20 分なのだが、日付は10月16日になっている。今日はすでに10月16日の午後 4 時過ぎじゃない？

あれ、つまり、私たちの乗るべき飛行機はすでに出発してしまっているということ？ あらら。

まずは落ち着いて、飛行場まで行ってみよう。

飛行場の Information に行き、話をしてみると、明日未明の British airway は飛んでいないということ。毎日出ている便ではないようだ。しかし、ロンドンの Stansted 空港行きの Ryanair 会社の飛行機ならば 21 時 20 分に出ているそう。

早速、Ryanair のカウンターに行き予約。3名の座席を確保。ひとまず、ホッとした。

日本では Ryanair なんて聞いたこともないが、最近話題の格安飛行機会社のような。キャッチコピーが、Fly cheaper なので一目瞭然だが、大ブリテン王国の気品は微塵もない。係員が少ないため、チェックインカウンターは大混雑。座席はフリーなので、乗客は良い座席を得ようと出発ゲートの前に長蛇の列。挙げ句に出発時刻も 40 分ほど遅延した。疲れること、この上ない。

とはいえ、無事にロンドンの Stansted 空港に到着。

パスポートコントロールでは、私は女性の係員に当たった。

「入国の目的は？ 職業は？ 宿泊先は？ 一度10月1日に入国しているわね。その間、どこにいたの？」余程、私の人相が悪かったのだろうか。根掘り葉掘り聞かれた。

荷物を引き取って到着出口を出たのは午前 0 時 30 分を過ぎていた。この時刻から、電車やバスに乗ることが出来たとしても、到着した駅からホテルまで、深夜の道を歩いて行くなんて危険過ぎる。選択肢はタクシーに乗って、直接ホテルに行くことだけだった。

タクシーカウンターの係員が、「ホテルまで 110 ポンドだよ。」と言ったとき、隣のお客は「あらまあ」という表情で目をくりくりしていた。

ノーウェイ。



Sant Vicenc のビューポイント



Aquarium



Aquarium

10月17日(水) British museum

ホテルから大英博物館まで歩いて十五分ほどだ。20年ぶりに再びここに訪れた。前回は英語もろくに喋れずにおろおろしていたし、大英博物館の展示物を見て、大ブリテン王国の世界に誇ってきた国力に圧倒されたものだ。当時、私に言うことが出来たのは、負け犬としての遠吠えだけだった。

「ここにあるものは世界中からかっばらってきたものだ。大ブリテン王国とは世界の盗人集団だ。」

今回改めてゆっくりと館内を見学してみた。世界中の遺跡から発掘された遺物を分かりやすく系統立てて展示

している。それはそれは見事だ。また、素晴らしいのは、その説明が簡潔で的確であることだ。だから、説明文を読んで展示物を見ると理解がはかどる。

つまり、ここに来れば世界中の各地の歴史が瞬時にわかる。歴史に興味がある人にとっては、大英博物館こそ世界で屈指の宝の山であると言ってよい。

また、不思議なもので、世界各国から訪れる観光客は何故か自分の国の展示室が気になるらしい。アフリカの観光客はアフリカのブースを訪れるし、イスラム諸国の人たちはイスラムのブースを訪れる。

では、アジアというと、中国ブースには中国人が訪れ、韓国ブースには韓国人が訪れる。たまに中国人が韓国ブースを訪れたり、韓国人が中国ブースを訪れることもある。だが、ひとつだけ言えることは日本ブースに中国人も韓国人も訪れることはないということだ。ここでも現在という時勢を感じさせられる。



パルテノン神殿の欄干の石像



アッシリアの遺跡



アマゾネス伝説

10月18日(木) ヒースロー空港から成田空港へ

まあ、いろいろとあった今回の旅だが、最後は平安に行きたいものだ。

ホテルをチェックアウトし10分ほど歩いて **Russell Square** 駅に到着。そこから地下鉄に乗って、ヒースロー空港の第5ターミナルで下車。

British Airway のチェックインカウンターに行き、チェックインしようとしたら、・・・。

「あなたの予約はキャンセルされています」

と係員はいう。

「キャンセルした覚えはないし、この通りeチケットを見て欲しい」

「すでにあなたの予約番号の座席はキャンセルされています。ここではこれ以上わからないので、向こうの **Ticket Information** で確認して下さい。」

最後の最後まで、いろいろと起こるものだ。 **Ticket Information** に行って、こちらの事情を説明し、また、 **British Airway** の話を聞くと次のようなことになっているらしい。

私たちは10月16日のイビサ島からガトウィック空港行きのフライトに乗っていない。そこで、 **British Airway** は予約した日本の代理店にキャンセルするのと確認を入れたようだ。そのとき、日本の代理店はキャンセルすると答えたという。この間、日本の代理店から私たちに何の連絡も取ってきていない。

私たちと代理店との契約では、フィックスドチケットにはなっておらず、変更可能なオープンチケットになっているので、イビサ島からガトウィック空港行きがキャンセルになったからといって、その後のヒースローから成田までがキャンセルされるのはおかしい。

と、 **Ticket Information** の前でいくら騒いだところでどうしようもない。それよりもフライトの出発時刻が刻々と近づいているのだ。残された道はひとつ。新規にヒースローから成田までのチケットを購入するしかない。後の処理は日本に帰ってから代理店との間でやるしかない。

Taさんのクレジットカードで3人分の代金を払おうとしたら、カウンターのお姉さんから次のように言われた。

「2人の **gentlemen** の分まで、1人の **lady** のクレジットカードで支払うの？」

そこで私はすかさず答えた。

「日本の lady はとても強くて、パワーを持っているのだ。」

負け惜しみ以外の何者でもないのだが、現実には現実である。

そして、私たちは無事に成田へ到着したのであった。めでたし、めでたし。